

# 海洋短波レーダを活用した浮遊ゴミ回収技術について

榊原雅人\*・根木貴史\*\*・諸星一信\*\*\*・小山内英雄\*\*\*\*

\* (財) 沿岸技術研究センター 調査部 研究員

\*\* (財) 沿岸技術研究センター 研究主幹

\*\*\* 国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所 所長

\*\*\*\* 国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所 調査課 課長

## 概要

東京湾の環境整備を図るため、昭和48年から「海洋環境整備事業」により、湾内のゴミ回収が実施されている。一方、国土交通省では、海洋短波レーダ及び定点係留機器を用いて、東京湾における環境モニタリングを実施し、海面の流れをリアルタイムかつ広域に観測することができるシステムを開発している。

そこで、東京湾の海洋環境整備のために運航している海洋環境整備船の作業の効率化、高度化を図ることを目的とし、国土交通省関東地方整備局所有の海洋短波レーダで取得される海面の表層流データから、潮目の発生位置及び浮遊物の移動経路の予測にかかる情報システムを開発するため、海洋短波レーダの観測データおよび気象・海象情報と浮遊物の移動経路との関係について検証・解析を行った。

キーワード: 海洋短波レーダ, 海洋環境整備船, 高度化, 潮目予測, ゴミ回収

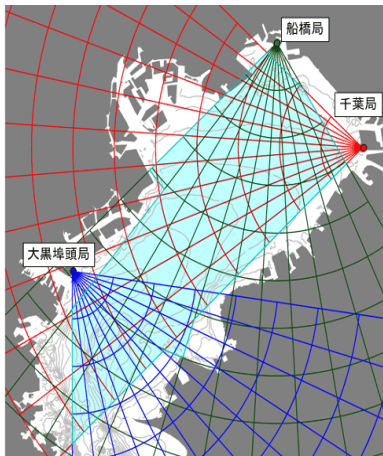


図-1 東京湾におけるレーダ観測範囲

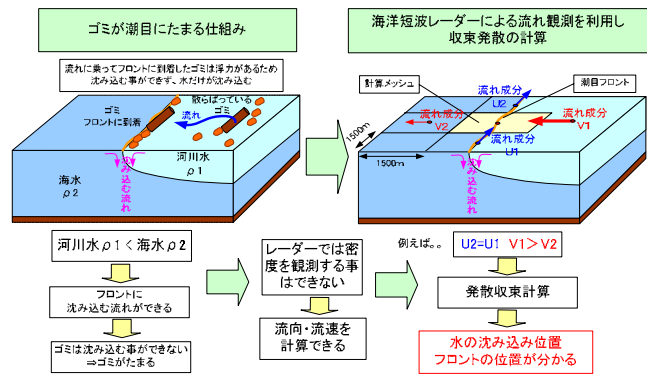


図-2 潮目における水質の変化, 流れとレーダによる収束発散について